『地域政策研究』（高崎経済大学地域政策学会） 第 17 巻　第 1 号　2014年 8 月　117頁～ 132頁

〈実践報告〉

英語コミュニケーションを実践する意欲を育てる試み

関　口　智　子　　髙　橋　栄　作

An Attempt to Develop Students' Motivation to Practice English Communication on Campus

Tomoko SEKIGUCHI & Eisaku TAKAHASHI

要　旨

授業時間外に実践的英語コミュニケーションの場をどのように提供すれば良いのか。この問いに答えるために、2013年度後期、本学で試験的に実施した取り組みについて紹介する。まず、同年度前期、学習者のニーズを把握するためにアンケート調査を行い、その結果に基づき、英語実践の場としての自由英会話スペース　“English Café” を開設した。期間中、アンケート箱を設置し、利用状況や実施内容に関し、随時利用者からのコメントを収集した。アンケートにより、利用者の多くは、英語でコミュニケーションをとることに対し前向きな態度を持ち、英語を実践する意欲が高まったことがわかり、本試みが教室外の学習環境の向上に貢献したことがうかがわれる。また、アンケートに加え、継続して利用している学習者にSST （スタンダード・スピーキング・テスト）を実施し、“English Café” の利用前後における英語会話力を測定した。予約システムなどの点において改善すべき課題があったが、アンケート結果等を考慮し、2014年度からの本格的実施に向けて改善に取り組みたい。

キーワード：コミュニケーションの場、英語実践の場、English Café、 意欲の育成

Summary

This paper illustrates a pilot project conducted on our campus in the fall semester in 2013 to find out how to provide students with an opportunity to practice English in activities outside the curriculum. First, we conducted a survey in the spring semester in 2013 to understand the needs of the students. In the following semester, we opened “English Café”, a free English

conversation lounge, on a trial base, in response to the results of the survey, and collected comments from the lounge users about the usage and contents by placing a comment box. Comments collected from the users shows that they have developed a positive attitude toward English communication and increased the motivation to put English communication in practice, which suggests that “English Café” may have contributed to improvement of their learning environment outside the classroom. We also conducted SST （Standard Speaking Test） to assess the speaking proficiency of the frequent lounge users by comparing their scores before and after the use of “English Café”. Although this pilot project has some challenges to solve, such as a reservation system, we will work toward full-scale implementation of the project in the school year of 2014-2015 in response to the results of the pilot project.

Keywords: opportunity to communicate, opportunity to practice English, English Café, development of motivation

Ⅰ．はじめに

本学では、学生は英語を必修科目として履修しているが、本学に英語圏からの留学生が少ないこともあり、英語をキャンパス内で実践する機会が少ない。特に2013年度までは、地域政策学部では初級レベルの全学生が、ネイティブ講師による授業を履修していないため、一度もネイティブと英語でコミュニケーションをとる経験なく卒業してしまう。上級レベルの学生にも、日々勉強している英語を実践するための場が必要である。English Caféは、全学の学生を対象に、英語学習環境の格差を縮小し、「生きた英語」を実践する場、異文化を体験する場、そして英語を学ぶという共通の目的を持った学生たちの集いの場を提供することを目標として開設された。

Ⅱ．実施状況

（1） アンケート調査

学生たちのニーズを把握するために、2013年度前期６月に、英語必修クラス23クラス、選択クラス２クラス、合計25クラスの学生（合計599名）を対象にアンケートを実施した。質問は以下の５項目で、質問１、２で英語を話す場に対する学生のニーズ、質問３、４で実施する場合の曜日・時限の希望、質問５、６で運営に関する要望を調査した。（アンケート結果は資料１参照）

１．ネイティブと会話する機会が欲しいか。
２．このような機会があれば参加したいか。

３．都合の良い曜日
４．都合の良い時間帯
５．レベル分け
６．期待するもの

資料１に見られるように、学生の65%がネイティブと会話する機会を望み、60%がこのような機会があれば利用したいと考えていることがわかる。また、実施曜日に関しては、水曜日の希望が多いが、他の曜日に関してはあまり違いが見られなかった。実施時間帯に関しては、６時限が60%弱、次に昼休みという結果になった。これは、アンケートで、６時限、昼休み、その他という回答項目しかなかったために、この２つに回答が誘導された可能性がある。その他の項に様々な時限を書く学生がおり、実施時間帯の希望に関しては各自のスケジュールによりかなりバラツキがあると思われる。

（２） 試験的実施

ａ．運営形態

上記のアンケートの結果も踏まえ、2013年度後期より試験的にEnglish Caféを実施することとなった。具体的な運営形態は以下のとおりである。

名　　称：English Café
場　　所：三扇会館　３階
実施期間：2013年11月６日（水）から2014年１月24日（金）までの９週間
　　10月21（月）から予約受付開始
規　　模：１クラス学生５人まで
担当教員：本学のネイティブ非常勤講師
実施曜日・時限および担当者：

	月	水	木	金
昼休み（30分） 30 x 1*				D（経済学部、アメリカ出身）
４時限（90分） 45 x 2		B（地域政策学部、オーストラリア出身）		
５時限（90分） 45 x 2	A（地域政策学部、イギリス出身）			
６時限（60分） 30 x 2			C（地域政策学部、アメリカ出身）	

*12月より３時限の前半45分に変更

予約手順：

・実施日の２週間前から事務室教務のカウンターで予約が可能となる。
・各セッション定員５人の予約制とする。参加希望者は、予約表の希望するセッションに名前を記入する。
・各セッションに５名のキャンセル待ちを受け付ける。

まず、本企画の名称は当初通りEnglish Caféとして実施することとした（コーヒーとお茶をセルフサーブビスで提供）。各セッションの規模に関しては、教員１人を囲み、全員で１つのトピックについて会話をするには、５人前後の人数が適切であると考えた。また、アメリカ、イギリス、オーストラリアと複数の出身地の講師をそろえ、学生が様々なバリエーションの英語に触れる機会を設けた。火曜日を除く週４日、昼休み、４時限、５時限、および６時限と異なる時限にセッションを開設した。90分枠と60分枠の２種類を設け、それぞれ前半と後半に２分割した。前半を初級向け、後半を中上級向けとし、昼休みは、２つのレベルを１週ごとに交替した。

担当教員がやむを得ずセッションをキャンセルする場合は、事前に教務の担当者に連絡を入れ、即掲示板に掲示することとした。また、毎回担当教員に、取り扱ったテーマやその他セッション運営に関するコメントを日誌に書き込んでもらった。日誌はファイルし、適宜担当教員が参照し、引き継ぎなどがスムーズに行えるようにした。同様に、学生からのフィードバックを集めるために、実施場所に自由記入のアンケート箱を設置した。

b．利用状況

以下は、各セッションの予約状況を曜日ごとにまとめたものである。月は８回、水、木は９回、金は初級用セッションが５回、中上級用セッションが４回の計９回、合計61のセッションが設定された。予約表に１度でも予約を申し込んだ学生は55名で、そのうち３名が正当なキャンセルや無断キャンセル等で不参加、他の３名がキャンセル待ちのみで終ったため、計６名は予約やキャンセル待ちをしても１度も利用できなかったことになる。この６名を除くと、49名が少なくとも１回はセッションを利用していることがわかる。

利用状況は、曜日によってさほど大きなバラツキは見られなかった。水曜日は、同時限に経済学部のリレー講義や地域政策学部の講座（いずれも大教室での講義）があったためか、予約の入るペースが他の曜日と比べ遅いようであった。木曜日は６時限と遅めの時間設定だったこともあり、窓口で予約をためらう学生も見受けられたが、のべ予約数に影響はなかった。金曜日は１スロットのみの開設とし隔週でレベルを変えていたが、毎週予約はすぐに埋まっていた。以下の表で示されるように、2013年度後期11月から１月末までの９週間にわたる試行で、のべ202名の学生が利用予約、のべ19名がキャンセル待ち、総計221名がEnglish Caféを予約していたことがわかる。

	月		水		木		金		
	初級	中級	初級	中級	初級	中級	初級	中級	
回　　数	8	8	9	9	9	9	5	4	61名
の　べ　予　約　数	28	26	23	28	34	26	21	16	202名
のべキャンセル待数	4	0	0	0	4	4	5	2	19名
								総計	221名

c．Open Café の実施

予約なしでどのくらいの学生が参加するのか、またその場合の教員側の対応を見るために、予約なしのOpen Caféを２回開催した。第１回目は12月11日（水）の４時限、第２回目は１月20日（月）の５時限に実施した。実施にあたり、チラシを作成し、キャンパス内に掲示するとともに、全学の英語の専任および非常勤講師にチラシ配布と各クラスでの周知を依頼した。担当教員には事前に連絡し、Open Caféのセッションの内容を考えてもらった。２人の教員とも、不特定多数の学生に対応できるようペアワークでのアクティビティを予定していた。

第１回目：12月11日（水）４時限

参加者は、前半が２名、後半が１名であった。この日に多くの学生が殺到すると思ったのか、毎回参加している学生が参加していなかった。全セッションをモニターしていたが、少人数であることの利点が最大限に生かされていた。

当日の講師はオーストラリア人であったが、参加した学生はナチュラルスピードで話させる質問もほぼ１回で聴き取り、素早く反応できていた。１つのテーマについて、会話のキャッチボールが自然に行われていた。このようなセッションは、語彙力増強、文法矯正、異文化適応能力養成に効果的であると思われる。

まず、この日のテーマは季節柄、クリスマスや冬の過ごし方に集中した。講師がオーストラリアと日本のクリスマスの違いについて、たとえば日本ではクリスマスが終わるとすぐにツリーを片づけてしまうが、オーストラリアでは引き続き飾りつけをしていること、新年の休みには、オーストラリア人は冬の北半球、特に日本にスキーに行くことが流行しており、長野が人気のスポットであることなどは学生に新鮮だったようだ。このようなトピックで会話をしながら、講師は、暖房器具や休暇など冬に関連した語彙を導入していた。その他適宜、学生の文法上の間違いを訂正したり、より適切な表現を紹介したり、個人的なフィードバックを行っていた。このように各個人に対応した指導をし、１つのトピックについて意見交換ができるのは、このような少人数セッションの利点であり、通常の授業では得られないものである。

第２回目：１月20日（月）の５時限

前回のOpen Caféの参加者が少なかったため、さらに宣伝に力を入れる必要性を感じた。前回は、英語担当教員へのチラシ配布のため、周知される対象が１、２、３年生までに限られていた。キャンパスにチラシを貼っても気づかない学生もいたと思われるため、教授会で４年生を含むゼミの学生にOpen Caféを案内してもらうよう依頼した。

教授会で告知したにも関わらず前半４名、後半３名の少数の参加であった。７名中５名は、今回がはじめての参加であった。絵の情景などを説明する活動や英語で物語を作成する活動を行っていた。絵を描写する活動は英語資格試験に取り入れられているものであり、また、英語での物語作成はある程度の英語力のある学生を対象に行われる方法であり、担当者の工夫がわかる。参加者は、上手く英語で伝えられないようであったが、楽しく英語で活動を行っていた。

Ⅲ．試験的実施の評価

（1） 利用者からのフィードバック

学生の利用に関する要求と今後の課題などを把握するために、学生に対して自由記述のアンケートを実施した（資料２参照、著者抜粋、原文そのまま）。アンケートを分析すると、この試験的実施が学生の英語学習を非常に鼓舞した事がわかり、実施した意義が認められたと考えられる。英語を話すことができる喜び・楽しさの他、参加した他の学生から刺激を受けたという英語学習に対する前向きな態度や、留学へのきっかけ作りにもなっていることがわかる（実際に春休み中に語学留学をおこなった学生がいる）。ただ、会話内容が単調なことや、時間の短さを指摘するものや予約制度の煩雑さをあげるものがあった。しかし、大方の参加者が、今後の継続を希望し肯定的な感想を持っていることがわかる。

（2） 模擬SST（スタンダード・スピーキング・テスト）の結果

a．SSTについて

アンケートに加え、量的効果測定の試みとして、SST（スタンダード・スピーキング・テスト）の模擬試験を実施した。このテストは、英語教材開発会社のアルク社が実施している15分間の対面式インタビューで英語のスピーキング力を測るテストである。SSTは英語に関する知識を問うペーパーテストとは異なり、英語の運用能力を測るテストとして、英単語、英文法、発音など、英語に関する知識を「その時、その場」で組み合わせ、話を創造する力を測る。受験者に実際に英語で話してもらうことで、国際社会において必要とされている英語の運用能力がどれだけあるかを以下のように１～９のレベルで評価する。非常に簡単な単語や文章が少し話せる程度の「初級」から、国際会議でもさほど困難を感じない「上級」までカバーしている。

Level	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	初級			中級					上級

正式な受験には、アルク社に申し込みをし（受験料10500円）、認定された面接官がインタビューをし、専門の訓練を受けた２人または３人の評価官がインタビューを聞き評価する。しかし、今回はアルク社の面接官および評価官の訓練を受けた本学教員が模擬的にテストを実施したため、評価はあくまで目安であり、正式に認定されたものではない。

b．SST模擬テストの実施

継続的にEnglish Caféを利用している６名を選び、個別にアポイントをとりSST模擬テストをプレテストとして11月に、またポストテストとして１月末に実施した。実際には、６名中、２名は１月末まで継続利用できずポストテストからはずしたため、４名の学生が２回模擬テストを受験した。以下に個々の学生の評価をまとめる。

	学部	学年	pre	post	利用回数	備考
A	地域	4	7	7	31	1年間留学経験有。モティベーションが高く、ほぼ毎日セッションに参加していた。
B	地域	2	5	5	9	短期留学経験有。会話における反応が早くなり、受け答えがスムーズになった。
C	経済	4	4	5	12	卒業後、語学研修、海外体験を予定。受け答えがスムーズになり、特に、発音がきれいになった。
D	経済	1	4	4	9	将来、留学を希望。まだ受け答えに時間がかかるが、文法がしっかりしてきた。
E	地域	4	7	/	9	
F	地域	3	4	/	1	

SSTの模擬試験では、１名（学生C）を除きスコアの向上は認められなかった。テストの性質上、短期的伸びではなく、長期的伸びを測るものであることが一因と思われる。それでも、１名の学生がレベル４からレベル５へ向上したことを考えると、短期であっても、本人のやる気と努力でスピーキング力に効果が現れることを示唆している。他の３名の学生も、スコアには反映されなかったが、特に会話における反応が早くなり、受け答えがスムーズになるなど、English Caféでの会話練習の成果がうかがわれる。どの学生も、留学経験があったり、今後留学を計画しているなど英語を勉強する目標が明確である。このようなモティベーションのしっかりしている学生が、

English Caféを積極的、継続的に利用し、成果を上げていることがわかる。

また、同じセッションを利用する学生同士で、英語学習や留学に関して情報交換するなど、学部学年を問わず目的を共有する学生の間に緊密なネットワークができていた。以上を鑑みると、「全学の学生を対象に、英語学習環境の格差を縮小し、『生きた英語』を実践する場、異文化を体験する場、そして英語を学ぶという共通の目的を持った学生たちの集いの場を提供する」というEnglish Caféの当初の目標は達成できたと思われる。

参考として、以下にSSTの４、５、７のレベルの概要を述べる。本学のEnglish Café利用者のトップレベルの目安が７であり、だいたいこの英語力で何ができるかを推定することができる。

レベル	英語を使ってできること	テキストタイプ	語　　彙	文　法　力	発音・流暢さ
4	様々な質問に文で答えることができ、簡単な理由を説明したり、描写をしたりすることができる。身近な話題であれば、自分から情報を付け加えることもある。	身近な話題からやや一般的なことまで、単文もしくはand やbut などの接続詞でつなげた重文で話す。全体的には単文中心の構文で、やや単調になりがちである。	基本的な単語の数はある程度保持しているので、それらをうまく組み合せながら、文単位で話している。しかし、日本語から英語に直訳しようとするため、不自然な語彙の選択も見られる。	動詞の時制の使い分けが安定しておらず、聞き手を混乱させてしまうことがある。また、and やbut などの接続詞が、必要な箇所で抜ける、逆に複数使うなどの間違いが見られる。	母国語の発音の影響が残るものの、ノンネイティブの英語に慣れているネイティブスピーカーなら理解できる発音である。しかし、話すのにまだ時間がかかり、言い直しも多く見られ、理解の妨げになることがある。
5	身近な話題であれば、多くの場合、自分から付加的な情報を提供できる。適切な言葉が見つからない場合も、知っている単語を駆使してなんとか言いたいことを伝えることができる。	文と文の論理的なつながりを意識し、andやbutのみならず、whenやbecauseなどの接続詞を使ってまとまりのある発話をしようとするが、接続詞の使い方が不自然になることもある。	基本的な語彙は習得している。細かい描写に必要な形容詞、副詞、イディオムが少し不足気味だが、時々、上級者が使うような洗練された単語やイディオムを使うこともある。	聞き手を混乱させるような大きな間違いはほとんど見られないが、細かなミスは随所に見られる。関係代名詞などを交えた難しい構文を使うと、時制や語順に誤りが生じてしまう傾向がある。	身近な話題ではかなりスムーズに話せるが、難しい話題になると途切れ途切れの発話になる。発音にはまだ母国語の影響が残るものの、ほとんどのネイティブスピーカーは理解できるレベルである。
7	過去のできごとや物事の説明をする際、まだ話題に左右されるが、細かい描写を加えたり、自分の経験談を交えたり、簡単な感想や意見を交えることより、自発的に話を膨らませることができる。	単文、重文、複文と、多様なテキストタイプを使って自然に話すことができる。パラグラフ（段落）単位で話を展開する場面もときおり見られる。	レベルの高い語彙を頻繁に使い、より詳細な状況説明ができる。口語的な表現もよく身についているが、まれに口語表現と文語表現が不適切に使われたり、言い回しが不自然になる。	文法の知識は固まっており、話す場面でも活用できている。現在、過去、未来の時制を的確に使い分けることができ、時間の経過を意識しながら話を進めることができるが、細かなミスはまだ見られる。	身近でない話題や高度な構文を使おうとすると、繰り返しや言い直しが見られるが、他の場合は流暢に英語が出てくる。発音も母国語の影響がかなり薄れている。

http://tsst.alc.co.jp/sst/level.htmlより一部抜粋

Ⅳ．試験的運用の課題

2013年後期に実施した試験的運用の課題を以下にまとめる。

（1） 予約システム

キャンセル待ちの学生の中に、手続きを踏まず、「予約状況を見たらまだ空きがあったから」と名前を書かずに来るものがいた。こちらからキャンセルの繰り上がり通知は行わないので、自分で確認に来ること自体を面倒がる学生も見受けられた。キャンセル待ちの制度は、試行の結果、現実的でないことが示唆される。

（2） 学生からのフィードバック

今回、無記名の自由記述のアンケートを継続的に実施したが、学生からの要望を収集するのに効果的だった。来年度より予約は不要となるため、利用学生の詳細を分析・把握することは難しくなると思われる。来年度も、アンケートを実施する際は、学部や学年、これまでの出席回数などが記入できるようにし、学生の情報を把握できるようなシステムをつくることが必要である。

（3） 広報・宣伝

今回の試験的実施では、宣伝方法は主にキャンパス内の掲示、英語教員を通じての案内であった。より、広い層に呼びかけるため、新入生と在校生のオリエンテーションでの周知、全学の教員による働きかけなど、全学的な取り組みが必要である。

Ⅴ．おわりに

学生のアンケート結果などを考慮し、来年度はより多くの学生の参加を可能とするため予約不要とし、また、人数制限も特に設けないこととした。英語学習環境の格差を解消し、英語を実践する機会をより多く学生に提供するため、実施時間を長く設定する。学生の視野を広げ、英語学習に対する意欲を向上させるため、ただ漫然と会話を行うのではなく、様々な英語圏の行事（Halloween、Thanksgivingなど）の紹介を取り入れたり、時事問題や芸術文化・スポーツ、英語圏の日常生活（若者文化など）にみられる習慣などをテーマに取り入れたい。これにより、疑似海外体験、いわば学内留学のような環境が実現できれば理想的である。今後もさらに、学生の持続的な英語学習促進につながるよう本プログラムを改善して行きたい。

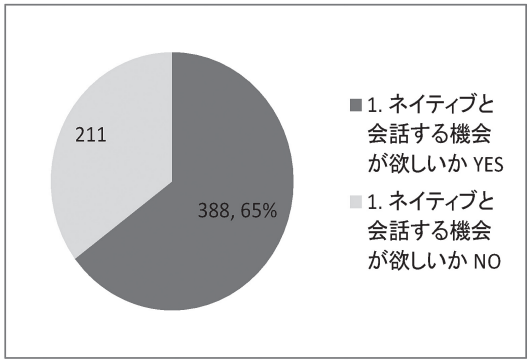
（せきぐち　ともこ・高崎経済大学地域政策学部教授）
（たかはし　えいさく・高崎経済大学地域政策学部准教授）

参考文献
金谷　憲『英語授業改善のための処方箋—マクロに考えミクロに対処する』2006. 大修館書店.
樋口謙一郎・木村隆「韓国の『英語村』-現状と展望-」『中部地区英語教育学会紀要 第39号』 2010.135-140 .
http://tsst.alc.co.jp/sst/ SST ALCの英語スピーキングテスト
http://tsst.alc.co.jp/sst/level.html SST ALCの英語スピーキングテストレベル概要

［資料１］「英語を実践する場」に関するアンケート結果

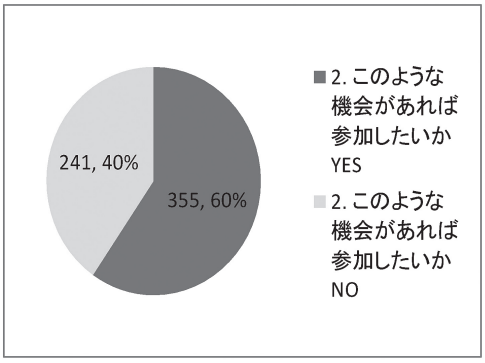
1. ネイティブと会話する機会が欲しい

YES	NO
388	211



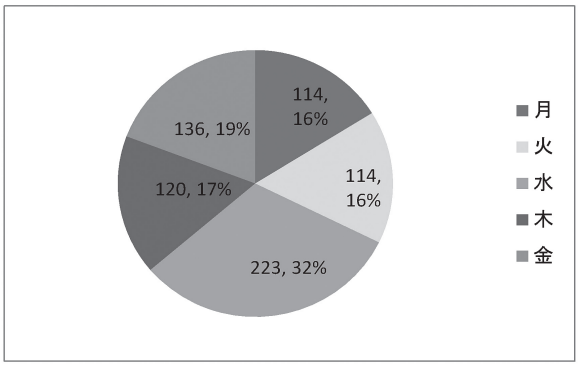
2. このような機会があれば参加したい

YES	NO
355	241



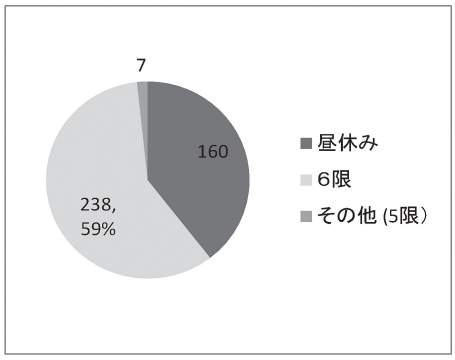
3. 都合の良い曜日

月	火	水	木	金
114	114	223	120	136

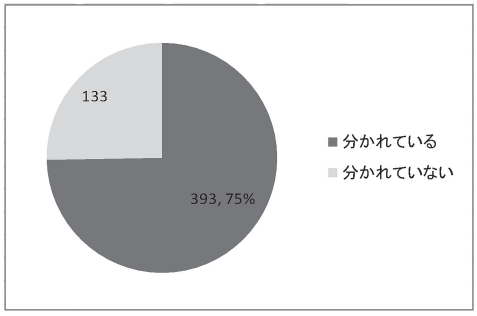


4. 都合の良い時間帯

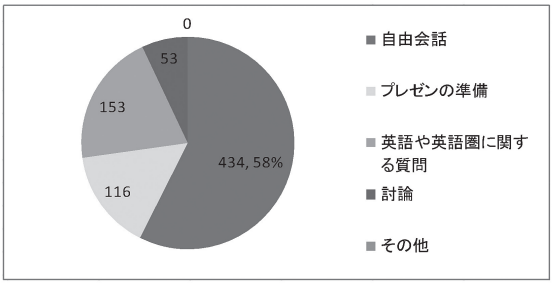
昼休み	6限	その他（5限）
160	238	7



5. レベル	
分かれている	分かれていない
393	133



6. 期待するもの				
自由会話	プレゼンの準備	英語や英語圏に関する質問	討論	その他
434	116	153	53	0



［資料２］　各セッションに対する学生からのコメント　（著者抜粋、原文そのまま）

Ａ先生のセッション

11月11日

- 言い回し等学べて良かった。話す事で身につくと思うのでとてもいい機会だと思います。とても楽しかったです。
- Nativeの先生に英語が上手いと言われうれしかったです。こういう機会はあまり無いのでまた参加したいです。楽しかったです。
- 先生がフレンドリーで話しやすかったです。もっと長い時間やりたかった。人数はこのくらいでいいと思います。
- English Café に参加して１週間が経ちますが、どんどん好きになるばかりです。今後も参加していきます。
- 初めて参加したので、緊張しましたが楽しかったです。時間をもう少し長くできたらもっと良いと思いました。また、ゲーム的な事をして楽しく学べたら良いと思います。４年になってからは、英語に全く触れていなかったので、自分から話す事がなかなかできませんでした。
- 会話を聞くのに必死だったけど、ジョークを交えた会話でおもしろかった。いきなり質問するのは、少し難しかった。自分から話すのに言葉が出てこなかったりしたので、もっと勉強しようと思えた。
- ゲームなどを使い、みんな（５人）がしゃべれる機会を平等に使えたらよいのかと思いました。

11月25日

- Today's class is very interested. I think Japanese education system is not good. I can read in English but can't talk. Teacher is very nice people. I like them,I want to speak much more time.

12月９日

- 比較的英語が聞き取りやすくてよかった。春休み留学を考えるので、そのためにもっとボキャブラリーを増やしていきたい。
- 今日は、サッカーについて話したりjob hunting について話しました。前回よりスラスラ話せるようになったと思います。とても楽しかったです。

12月16日

- 英会話のアドバイスがもらえると次に来るのが楽しみになると思う。メンバーが前回と同じで、自己紹介以外もでき、良かった。
- 難しいTopicでしたが、楽しかったです。
- 英語の勉強にもなり、政治の勉強にもなりました。

１月６日

- 今回２回目だったが、英語を話す事は難しいと思った。話す事が大切だと思うので、どんどん参加したい。

１月20日

- 最初は緊張と単語が分らないことで、上手く話せなかったのですが、後半はいろいろと話せて楽しかったです。もっと勉強します。
- 少人数だったので、緊張せず話せました。ミスを恐れて黙るより話した方が良いと感じました。楽しかったです。
- 英語で話す事に慣れてきた。めったにない機会なので、来年もやってほしい。

Ｂ先生のセッション

11月６日

- もう少し長い時間がほしい。
- とても充実した45分間であっという間でした。５人という定員はとても話しやすく、今後も参加したいと考えています。
- 英語でフリートークをすることに、全く慣れていないこともあり、最初困惑してしまったが、

時間が経つにつれて、自然と話せる雰囲気になったのはよかった。

11月20日

- 初めて行ったので少し緊張しましたが、自由に話ができて楽しかったです。

11月27日

- ３人だと話せる機会も多く楽しかった。
- 前回は30分で短いと感じましたが、45分でもやはり短いと感じました。自分の英語力が低いと感じました。
- 私は英語の勉強がしたかったのですが、塾は高いし時間もあわなかったので、勉強ができませんでした。しかし、English Caféに参加してからは、英会話に自信をもつことができました。また、毎回自由テーマでやっていますが、テーマがあればもっと会話の内容が豊かになると思います。

12月４日

- 留学についてのアドバイスをもらえ、よかった。
- 新しい単語、情報を得られてよかった。
- 時間が少ないので、もっと長くしてほしいです。
- みんな意識が高く、自分も英語頑張ろうという気になれます。

12月11日

- 予約なしでもいいのではないかと思う。今回の紙の形式も２回に１度でいいと思う。
- とても温かい雰囲気でとても話しやすかったです。

＜オープンカフェの感想＞

- 普段とかわらなかった。
- もう少し本格的に話したい。そのためラジカセを１つ用意してBGMをかけたり、プログラムの１つを１時間にのばすなどしたらどうだろうか？

１月８日

- 初めて参加しました。来春から米国留学をかんがえているので、無料でこのような機会を得られて良かったです。また参加したいです。
- 普段関われないような人と話せて楽しかったです。

１月22日

・　2014年度も続いてほしいです。
・　４月からも続いてほしい。英語を話す機会を与えていただけて良かったです。（欲を言えば長期休みも参加したいです。）
・　思うようにしゃべれなかったり、聞き取れなかったりして自分がくやしかった。もっと勉強してちゃんと会話できるようになって、また挑戦したい。これからも、継続してほしい。
・　普段話したことがない人と話せる良い機会だと思います。次回も参加したいと思います。

Ｃ先生のセッション

11月７日

・　予約の仕方をもう少し改善してほしい。（キャンセル待ちなど）
・　英語を話す気にさせる雰囲気がいいと思いました。
・　少しでも英語が話せるようになりたいので、宿題をください。

11月21日

・　時間が少し少ないと感じた。
・　５人程度で、もう少し一人ひとりに話す機会があれば良かった。

11月28日

・　各先生に特徴があっておもしろいです。
・　英語たくさんしゃべれて、よかった。
・　英語を話す機会があまりないので、とてもいい機会だと思う。
・　たくさん人々に会って、良かったと思う。

12月５日

・　英語が聞き取りやすかった。アドバイスをもらえ良かった。
・　ずっと英語で会話するのが難しかった。英語で話す事が全然できないんだなと思った。でもまた参加したいです。

Ｄ先生のセッション

11月8日

・　室内がうるさかったので、部屋を移動してほしいです。ネイティブの方とお話しできて良い経験になりました。
・　教室がさわがしくて、先生の言葉が聞き取れなかったが、すぐに移動してくれてその後しっ

かりと話をすることができて良かったです。

11月15日

- できるだけ均等に話す機会を与えてくれたのがよかった。他の人は普段から練習していることもあって、スラスラと言えていたが自分は途中、考えてしまう時間があってので、こういう英会話を練習する必要性を感じました。
- 全然上手く話せなかったが、少しでも英語を話そうと努力できたことや一緒のクラスの英語が上手な人の話し方を受けて、学べることがたくさんあった。ただ、30分という時間は短いと思ったのと、なにかアクティビティなどしたいと思った。
- 30分、45分は少し短い気がするので、できれば60分くらい話したいと思います。

11月22日

- 参加者のレベルの高さに驚いた。とても良い刺激になった。
- ディスカッション形式でやりやすかった。
- 生徒の集まりが悪くて、時間がないのに失礼だと思った。
- It's good time because we could speak English very much.
- Lunch time is a little busy to have English Café.

12月６日

- とても楽しい！早く海外に出ていろいろな人とふれ合いたいと思った。世界は広い。

12月13日

- ペアを組んでQ＆Aはよかったです。
- 話しやすいtopic だったのでたくさん話せました。楽しかったです。45分が短く感じました。
- もっと、時間を増やしてほしい。

12月20日

- 今日はたくさん話すことができおもしろかった。
- 初めて参加したが、思ったより難しかった。しかし、同時に楽しかった。
- I hope we all have a happy new year.
- Today, I think that I have to study more.

１月10日

- 英語しゃべれないのに来てしまいました。非常に周りの人に迷惑をおかけしました。申し訳

ないです。やはり英会話に必要なのは笑顔ではなく英語でした。

- 今回参加できたことは、自分にとって良い経験になりました。他の人の英語を聞けたことや、自分で話したことまだまだ未熟ですが、これからもがんばろうと思いました。
- ３回目です。無料で英会話ができるのが嬉しい。これからも続いてほしい。